

## あじさいの小道

この寒空の時期誰もこのあじさい園に覗き込むものはいない。  
たまたまカラスウリの実がなっているか確認に行き、その  
足で、あじさいの咲く小道に寄ってみた。  
不思議な感覚になった。静寂の中にあじさいはまだ残っていた。  
色はだいぶ色褪せ、渋い色合いである。  
どこかドライフラワーのようである。  
最盛期の華やかさと違って、別の感覚がする。  
何か感動を与えてくれる。  
ひっそりと枯れ行く中で、まだまだ美しさを秘めている。  
それは何なのか。  
共感する哀れさだろうか。  
花期の終焉はどの花にもある。  
それを受け入れながら、時を待つ。  
木枯らしが吹き、冬将軍が襲ってくる。  
じっと耐えながら、終焉の時を待つ。  
植物は8°C以下になると成長が止まり、  
5°C以下になると休眠状態に入る。  
そして春を待つ。  
春になれば新芽が出る。  
これが植物にとっての再生であり、復活である。  
この小道を通して考えさせられた一コマである。